

令和7年11月7日発行（第198号）

こうじえん

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



先進地農家研修（in 久慈）

宮古地方農業振興協議会では、10月2日に、管内の新規就農者や就農希望者を対象として先進地農家研修を開催しました。

本研修は、管外先進地で活躍している新規就農者や若手生産者から、就農に当たっての心構えや、栽培・経営管理のポイントを学ぶことを目的としたものです。

当日は宮古管内から10名が参加し、普代村でほうれんそうを中心に栽培している中村駿人さんと野田村でブロッコリーやきゅうりを栽培している新山麗佳さんの圃場を見学した後、久慈地域の生産者12名と意見交換会を行いました。

参加者からは、雇用の確保や活用、品目の選定について等、幅広く質問が挙げられました。

研修終了後には、生産者同士で連絡先を交換する姿も見られ、今後の交流につながるきっかけとなったようです。

今回の研修が、参加者の今後の営農を考えるうえでの一助となるとともに、生産者間の交流拡大の契機となることが期待されています。



【担当：澤田（葵）】

農作業パート希望者等を対象とした農作業体験会を開催

近年、高齢化による労働力の減少や、経営の規模拡大を目指す農家の労力確保の必要性を背景に、労働力の確保が重要な課題となっています。そこで、この課題解決の「きっかけ」づくりとして、10月23日に農業のパート・アルバイトに関心のある方々を対象とした「農作業体験会」を宮古市で開催しました。

本体験会には、管内の市町村から6名が参加しました。参加者は、ピーマンの出荷・調製作業に実際に取り組んだほか、動画でブロッコリーの収穫作業の様子を学び、農作業への理解を深めました。

体験後には、情報提供・意見交換の時間を設け、JAが運営する無料職業紹介所「アグリパートナー」の仕組みや、雇用をしたい農家と働き手を引き合わせる「マッチング会」といった就労支援の取り組みについて紹介しました。

参加した方々からの「実際にパートで働く際の時間帯や作業時間はどうなるのか」といった質問には、実際に受け入れている農家からの助言も行われました。農作業パートへの参加意欲も見られ、今後の労働力の確保へとつながることが期待されます。



【担当：松浦】

良い子牛を育て、良い子牛を出荷する ～第 25 回宮古地方日本短角種子牛共進会開催～

10月10日、宮古地方における日本短角種の改良増殖技術確立と生産意欲向上を目的に、第25回宮古地方日本短角種子牛共進会が開催されました。8月には「親牛」の共進会が開催されましたが、今回は「子牛」の共進会です。

生まれ月別で3部門に分けて計41頭が出品され、発育や短角牛らしさなどに注目し審査が行われました。各部門の優秀賞を受賞した牛の中から、岩泉町の佐藤安美氏が出品した「いおな」が、名誉賞を受賞しました。

子牛共進会の入賞牛は、次の親牛候補として家に残されるほか、良い子牛の証拠である「たすき」をかけて短角牛市場へ出荷されます。「たすき」がけの子牛は、10月22日23日に開催された市場において、市場平均価格より高値で取引されていました。良い子牛を育てることは、次につながっていきます。

畜産情勢は依然として厳しい状況が続きますが、普及センターでは、生産者・関係機関と共に、日本短角種の生産振興に取り組んでいきます。



【担当：澤田（建）】

第 61 回岩手県沿岸ホルスタイン共進会開催

明治28年にホルスタイン種雄牛が岩泉町に導入されてから130周年を迎える節目の今年、第61回岩手県沿岸ホルスタイン共進会が、10月11日に岩泉町「乙茂おでんせ広場」を会場に開催されました。開会式冒頭には、第16回全日本ホルスタイン共進会（10月25日～26日、北海道）に岩泉町の工藤淳平氏の経産牛が出品されることが紹介されました。

未經産牛や経産牛の8部門に30頭が出品され、発育や品位、乳器等の項目で審査が行われました。審査の際には、酪農家が牛の引き付けを行い、家族や酪農仲間が審査の行方を見守っていました。

ジュニアチャンピオン（未經産牛最高位）は、岩泉町の山屋祐太氏の「アディロン DB ハーゲン パタン ブルック」が受賞し、グランドチャンピオン（経産牛最高位）は、岩泉町の山崎敏氏の「ドラゴンブルー ボルドア ハッピー チップ ET」が受賞しました。

普及センターでは、これからも酪農家や関係機関と共に乳用牛の生産振興に取り組んでいきます。



【担当：昆野（善）】

第 35 回岩手県わさび品評会が開催されました

第35回岩手県わさび品評会が、9月26日、27日の両日、岩泉町で開催されました。今年は根わさび6点、畑わさび12点の出品がありました。このうち畑わさびの部には岩泉町9点と宮古市から3点が出品され第1次審査を経て、26日の審査会に臨みました。一等の最優秀賞は94点の高得点を得た岩泉町の吉澤佳奈美氏、続いて二等の優秀賞は同じく岩泉町の杉山立真氏が受賞となりました。杉山氏は栽培を始めて3年目の新鋭です。三等の優良賞は岩泉町の3点が、奨励賞は岩泉町1点と宮古市の1点が選ばれました。翌27日には、岩泉ヨーグルトまつり会場にて、表彰式とともに受賞品の展示販売も行われました。今年の猛暑は畑わさびにとって厳しい気象条件でしたが、最優秀賞は4キロ以上、優秀賞も3キロを超える巨大な株が来場者の注目を浴びていました。



【担当: 冨永】

りんご品種試食会（中生種）を開催しました！

10月16日に「令和7年度りんご品種試食会(中生種)」(主催:宮古地方農業振興協議会)が岩泉地区合同庁舎で開催されました。宮古地域では、りんご生産者それぞれが品種の選定を行っており、今後品種構成を検討する際の参考とすることを目的としたものです。

当日はりんご生産者10名の参加があり、参加者が持ち寄った品種・系統に加え、当地域で試食の要望が多かった「伊達ロマン」、「ロマンの雫」、「奥州ロマン」等、計15品種・系統の試食を行いました。試食は立食形式で行われ、参加者同士で活発に意見が交わされる等、和気あいあいとした試食会となりました。

参加者からは、「奥州ロマン」等の食べたことのない品種を試食できて良かった」、「これまでは晩生種を主体とした品種構成を検討していたが、今回の試食会で中生種にも有望な品種があることが分かった」等の声が寄せられました。

今後、晩生種を対象とした試食会も計画しています。普及センターでは、関係機関と協働し、りんごの生産振興に向けて支援を継続していきます。

【担当: 佐々木(絢)】



賑やかな雰囲気の中、
品種の評価や感想の共有を行いました！



「銀河のしずく」と「白銀のひかり」作付経営体の受付開始！

県では、令和8年産「銀河のしずく」と「白銀のひかり」の作付経営体を受付中です。今回は、作付要件が緩和され、銀河のしずくでは、「作付け予定面積が概ね 30a 以上であること」、白銀のひかりでは、「前年の主食用米の作付け面積が概ね市町村平均以上であること」がなくなりました。作付けを希望する方は以下の報告先まで、ご連絡ください。

	銀河のしずく	白銀のひかり
受付期間	令和7年 12 月 12 日(金) 17 時まで	
主な作付け要件	○ 作付水田が栽培適地にあること ○ 「銀河のしずく」の販売を行うこと ○ 農産物検査で、過去2年間の1等米比率の平均が 95%以上 であること	○ 作付水田が栽培適地にあること ○ 「白銀のひかり」の販売を行うこと ○ 農産物検査で、過去2年間の1等米比率が 市町村平均以上 であること
報告先	○ JA に出荷をされる方 → 新岩手農業協同組合 宮古営農経済センター (TEL:0193-69-3220) ○ 個人販売をされる方 → 宮古市農林水産部農林課 (TEL:0193-68-9094 (直通)) 山田町農林課 (TEL:0193-82-3111 (代表)) 岩泉町農林水産課 (TEL:0194-22-2111 (直通)) 田野畑村産業振興課 (TEL:0194-34-2111 (直通))	

※1 「銀河のしずく」の栽培適地は宮古市、山田町、岩泉町ですが、地区ごとに栽培の可否が分かれていますので、詳細は JA、各市町村、普及センターにお問い合わせください。

「白銀のひかり」の栽培適地は宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村の全域です。

※2 募集内容の詳細は県の HP でご覧いただけます。

○ 「銀河のしずく」作付経営体の募集

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/seisan/1034119.html>

○ 「白銀のひかり」作付経営体の募集

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/seisan/1078547.html>

【担当:川原田】

秋冬季も！

農薬は適正に使用しましょう

秋冬季に栽培される施設葉菜類において農薬残留基準の超過事案が発生しています。以下の事項に留意して、農薬の適正使用の徹底に努めましょう。

- 1 農薬のラベル(適用作物、使用時期、使用方法等)をよく確認し、使用記録を残す。
- 2 非結球あぶらな科葉菜類等、作物群で登録のある農薬は、適用作物の誤認がないよう注意する。
- 3 農薬の散布器具、収穫容器、農作業用具等の洗浄不足がないか点検する。
- 4 農薬の飛散や、前作で使用した農薬の土壌残留に十分注意する。
- 5 農業生産工程管理(GAP)の取組により、食の安全・安心確保の取組を一層強化する。

【担当:佐々木(絢)】

(編集後記)

耕耳苑 11 月号をお読みいただきありがとうございます。最近は宮古地域でクマの出没が頻繁に確認されています。外出の際はなるべく複数人で出歩く、音を出す等、クマを寄せつけない対策をお願いします。目撃したら、市町村や警察への連絡もお忘れなく! (戸田)